



919校の修学旅行実施報告を集計

タクシー利用が急増

平成2年度 関東地区公立中修旅委

（助全国修学旅行研究協会）
（山本種一理事長）と、関東地区公立中学校修学旅行委員会（副委員長、阿部豊会長・宇都宮市立一乗中学校校長）は、「平成2年度修学旅行実施報告」の結果をとりまとめた。

この調査は、修学旅行の計画輸送によって、修学旅行を行った八三三校（加盟校）と、未加盟で独自の計画により旅行を実施し、この調査に協力してくれた九六校（協力校）との、合計九一九校について集計したものである。

第1表 平成2年度 県別加盟校状況(校・%)
表頭: 県名, 設置校, 加盟校, 加盟率, 前年度加盟率
データ: 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 5県

以上の報告内容を、集計分析した概要を報告する。
このうち、8と9の項目は五年この調査で、昭和六一年実施して以来のものである。

第3表 平成2年度 県別・コース別割付と実績
表頭: 県・コース, 割付, 実績, 増減
データ: 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 5県

第2表 学年修学旅行の期日(出発日)
表頭: 年度, 期日, 加盟校, 協力校
データ: 平成2年度, 平成元年度, 昭和63年度

一 設置校と加盟校
第一表のとおりである。設置校とは、市町村立の公立中学校のことで、加盟率は60.2%、ほぼ横ばいである。
二 宿泊数と実施学年
宿泊数はすべての学校で二泊三日であった。
実施した学年は、加盟校はすべて三年時で、協力校の28%は二年時に実施している。三 実施の時期
第二表のとおりで、当然ながら加盟校では、ローテーションによる割付なので、学校の希望する日は限らない。学校としての最遅期は、五月六月であるが、最近の傾向として、高等学校の受験対策を考へてか、二年時に旅行する学校が増えた。

四 参加学校数と人数
第三表に、県別・コース別参加校数と人数の割付と実績を示した。(加盟校のみ)
在籍生徒数は、昭和六三年度がピークであったので、本年度も減少傾向にある。人数の実績は、前年度より一三、五五六人(6.6%)減少であった。この現象は今後も続くものと思われる。
旅行方面別では、関西方面へ旅行する学校が、全体の95.4%である。東北方面に旅行する学校のある県は、多い順に、千葉、埼玉、群馬の三県である。

第4表 平成2年度 県別参加校数内訳と教師一人当たり引率生徒数(人)
表頭: 県名, 参加校数, 生徒数, 教職員数, その他, 平均引率
データ: 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 5県

第四表に、本年度の参加校数の内訳と、教師一人当たりの引率生徒数を示した。
教師一人当たり引率生徒数は平均一八・九人で、毎年減少する傾向にある。

五 割付と実績
本年度は、割付後の取り消しが六校、追加申し込みが九校、差し引き三校の増加となった。
取消は場合によっては、その理由で不参加の生徒が一九人である、昨年に比べほぼ倍増

第5表 平成2年度 県別不参加理由の内訳(人)
表頭: 県名, 不参加理由, 人数
データ: 不参加理由: 不参加理由不明, 不参加理由不明, 不参加理由不明

第6表 学年 県別不参加率の変遷(%)
表頭: 県名, 学年, 不参加率
データ: 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 5県

不参加率は、第六表のように、全般的に減少の傾向に向かいつつあるが、全体で二一・一人の生徒が不参加となっている。こんなに大勢の生徒が不参加できなかったこと、関係者として胸が痛む。
一般に、農山村部、小規模学校ほど不参加率が低い。修学旅行を大切に思う心が、都市部では次第に風化しつつある。

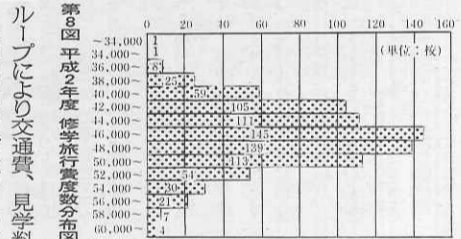
七 修学旅行費
本年度は、文部省の指導で修学旅行費の調査は費目別の詳細なものとなり、記入責任者に多大の御負担をお掛けした。
長久、怠学・登校拒否、参加したくないなど、本人の事情による不参加者は六〇二人(31.6%)で、昨年の四七二人(23.7%)に比べ急増している。

第7表 平成2年度 県別・方面別一人当たり修学旅行費の平均
表頭: 県名, 平均, 前年度, 増減率, 最低値, 最高値
データ: 茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 5県

消費税を含めて報告した学校が多少あったが、旅行費の平均は二、二九九円増加し、増加率は4.91%で、この調査を開始した昭和六一年度の四、七〇〇円(10%上昇)に、関係者として胸が痛む。

第八表は、修学旅行費の度数分布図で、ほぼ正常分配曲線となっている。
しかし、最高値と最低値の間に二七、五五八円(一・八二倍)の差があることに驚く。小遣いとおやつ代について小遣いとおやつ代について、各県とも「修学旅行の基準」に示されていないので、学校独自の方法で決めている。

第九表に、小遣いとおやつ代について学校(あるいは生徒)の決まりを示した。
第九表に、小遣いとおやつ代について学校(あるいは生徒)の決まりを示した。



最近では現地で、グループ活動を実施する学校が多くなっている。
年々生徒数が減少し、バス代の一人当たり単価の上昇も見逃せない。

箱根高原ホテル
〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)

とびだせ自然へ 緑の箱根へ
箱根高原ホテル
〒250-05 神奈川県箱根町元箱根164
電話0460-4-8595(代表)

●修学旅行/林間学校/スキー体験学習
奥日光の自然と仲間たちとの語らい……
夏は林間学校、冬はスキー
自然探勝の基地として日光国立公園内にたつ当ホテルをご利用ください
鉄筋3階建/小学生550名/中学生550名/高校生450名収容/大浴場あり
奥日光高原ホテル
〒321-16 栃木県日光市湯元温泉
TEL. 0288(62)2121(代表)

きっと、思い出いっぱいになる。
修学旅行は、鈴鹿サーキットで体験学習。
見て聞いて、触れて学ぶ。ためになる体験をしたら、宿泊はリゾート感覚あふれる「ホテルK棟」をご利用ください。魅力的な施設・サービスが修学旅行を思い出深いものにします。学校団体用SPECIAL PRICEにてお待ちしております。
そのほか、北欧風のD棟・E棟・G棟・J棟、団体でのお泊りに便利なビレッジF棟など多彩な宿泊施設もご利用ください。
体験学習のご案内
●エンジン教室 ●本田技研鈴鹿製作所工場見学
●モトビア ●モータースポーツ観戦 ●地曳綱
●潮干狩り ●伊勢形紙彫り ●茶摘み ●テーブルマナー 他

お問い合わせ・お申し込みは——
鈴鹿サーキット
〒510-02 三重県鈴鹿市福生町7992 ☎(0593)78-1111
〒107 東京都港区赤坂2-17-22
東京営業所 赤坂ツインタワービル東館16階 ☎(03)3582-3221